

「稲岡先生の謎解き」を読んで

地球市民オンライン塾 2023 T (指導主事)

1. 下線を引いた箇所 (=教諭時代、意識が薄かった箇所)

○ 「簡単」だと感じるのは、心の中に「安らぎ」が生まれているからです。つまり、経験したこと、自分の今の力量で達成できると感じられた時に、人はそう感じます。(p.3)

→ 「簡単」の解釈が、教師自身にあった。「これくらいできるだろう」という経験則で捉えていた。おそらく当時の生徒たち、特に英語を苦手としていた生徒にとっての「安らぎ」がなかったかもしれない。「Are you ready?」をもう少し聞いてあげるべきであった。

○ Shallow rivers can be rough and loud. (p.4)

→ 「生徒は、私が鍛える」この意識が強かった私の授業は、とにかく忙しかった。リズムやテンポを称賛してくださる方がたくさんいらっしゃった一方、裏を返すと、まさに「急流」のような授業であったかもしれない。決して私の説明が多い授業ではなかったが、生徒が思考する授業ではなかったように思う。

○ ゴールや授業のルーティン、テストの設問の形式が毎回同じであることから、授業で何を理解すればいいのか、何ができればいいのか、そして家庭学習で何をすればいいのかという見通しが立っていたということです。(p.4)

○ 入試、全国学力調査問題、英検、学年末の実力テスト、県下一斉に行われる学力調査といった他流試合で「できた!」といえる生徒を育てない限り、英語を好きにすることはできません。(p7)

→ 他教科と異なり、英語は、生徒が「できた!」と実感しにくいのではないか。どんなに授業中に英語で「言えた」、「書けた」という成功体験があったとしても、肝心のテスト(主に初見の英文等を扱う)で成果が出ず、結果、生徒は「英語=苦手科目」となってしまう。授業で取り組んだことが活かしているという実感をもたせるためには、もう少しテスト作りにこだわるべきであった。分析はするものの、それを解けるようになるための具体には欠けていた。分析→テスト作成→授業づくりであるべきものが、授業づくり→テスト作成→分析となっており、指導と評価の一体化とは言えないものであった。

○ 教師は「教」の部分には関心があり、力も入れますが、「育」の部分にはどちらかというと無頓着です。時間がかかるからです。待たなければならないからです。多くは、その割合が8:2、中には9:1という方もいます。「自己決定」の少なさが学校を閉塞させているように思います。(p5)

→ 自律的な学習者に育てるための視点が弱かった。外国語を習得するにあたり、自ら色々な学習方法を試行錯誤しながら力をつけていく。「この指導がうまくいったから」という理

由だけで、安易に自分の授業に取り入れ、生徒をその型にはめ込もうとしていた。言語活動に時間を割くべきであったが、「あれもさせたい。これもさせたい」の当時の私の授業は、「足し算方式」であり、生徒が「自己決定」する場面が少なかった。本当に身につけさせた力を明確にすべきであった。

○ 大事なものは、英語力よりも連想力を高めるためだからです。(p.8)

→ ずっとこの部分に悩んでいた。生徒が書きたい、言いたいことをどうやったら準備できるか。発想力に乏しいことを「生徒の生活体験不足」、「読書不足」など生徒の責任にしていた。連想力を高めることを英語の授業でもやるべきであったと反省している。改めて、英語の授業だけにかかわらず、朝の会や帰りの会といったちょっとした時間で、連想ゲームをするなどもう少し言葉に敏感になれるような取組ができたのではないか。

○ 教師は、教材を「プリズム」のように仕組む必要があります。(p.12)

→ 姫路城の3種類の写真を見て、「ハッ」とした。1枚のワークシートで英語の授業を楽しく受けることができた生徒はいただろうが、そうでない生徒もいた。「どうやったら生徒ももっとわかるようになるか」という視点が欠落していた。教科書の音読も、演読させていたら、生徒はどう読んだらうか。おそらく色々な解釈が出てきたのではないだろうか。

○ 膝を伸ばす(ストレッチ)ことで、凝り固まった身体をほぐして、血行を良くする効果があると言われている。座ってする呼吸よりも立って行う呼吸の方が、深く呼吸ができる。これによって、脳へ酸素が運ばれやすくなる。集中力が高まり、効率の良い学習効果が期待できると言われている。(p.19)

→ 「なぜ立たせるのか？」それを科学的に考えたことはなかった。こういったことを知っていてさせるのと、ただ単にさせるのでは取組に差が出てくると考える。落ち着きのない学習集団が最近多くの学校で課題となっている。立たせるためには、やはり言語活動が必要となり、つまりは、教師主導から生徒主体に切り替える必要が出てくる。

2 今思うこと

自分で出力をして、中嶋先生からの「謎解き」を読んで、下線を引き、「こうすべきだった」「こうしてみたい」とマイアクションに自分の思考が動いていることを実感できた。以前から、「自分の能力以上のことは気づかない」とおっしゃられているが、まさにそのとおりである。稲岡先生の授業動画を見て、原理原則を見出すために、既存の知識・技能を発揮しながら、自分なりに思考・判断・表現した。そうすることで、「知りたい」と新たな知識・技能を渴望する。今は、指導主事であり授業をすることはない。指導に行くと、先生方は、具体、つまり目先のテクニックを欲しがるとの傾向にある。

テクニックを教えることは簡単である。しかし、いくらテクニックを教えたところで、私

がかつてそうであった教師主導の授業から脱却することはない。今は、指導助言に行く際、「どんな生徒を育てたいのか」、「それは何の根拠をもとに言っているのか」そのためには「何をできるようにするのか」というところを必ず尋ねるようにしている。

もちろん、指導をしたからといって明日から授業が激変するわけではない。授業を変えるには時間と手間がかかる。そういった積み重ねが少しずつ実を結び、今では継続的に指導（一緒に授業を考えていると書いた方が適切かもしれませんが）している先生が何人かいる。

微力ではあるが、教師がコントロールする「**教**>育」から子どもたちのセルフ・コントロール力を高める「教<**育**」に変えるために変わらないといけないと痛切に感じた。